

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き・みんなが好き	考えてみよう！ やってみよう！	【？をいっぱい見つけよう】知・意欲 疑問や不思議さを抱き、試したり考えたり工夫したりして遊ぶ	身近な自然に関わる中で、砂は何故固まるのか疑問に思ったり、風上の方が多く風が吹き、風がなびく事に気づき、面白がったり不思議がったりする姿があった。保育者もすぐに答えを出さず、こどもの気持ちに寄り添うようにした	A	A	・参観時等に見る子ども達の日ごろの様子から、子ども達が「考えてみよう！やってみよう！」とする姿を垣間見たり、感じたりすることができた。こども園の自己評価通り、A評価でよいと思う	こどもに経験させたい事、学びにつなげたい事を保育者一人一人がきちんと考え、意図的な環境を用意したり、すぐに答えを出さずに一緒に不思議がったり、考えたり、調べたりするようにした事で、こども達の「なんでだろう？」「どうしたらいいだろう？」と考えたり工夫したりする姿につながった。また、温かなまなざしでこどもの気持ちに寄り添う事で、こども達が安心感をいただき、友達思いに気づいたり、自信をもって色々な遊びに挑戦する姿につながった。引き続き、来年度も保育者としての役割を一人一人が考えて行動できるようにしていく
		【心を動かそう】徳・心情 自分の思いを伝えようとして、友だちの思いに気づき、興味を持って関わろうとする	1学期は「〇〇君がやった」等と保育者にしか思いを伝えられなかった子も保育者に共感してもらい、保育者と一緒に伝える等の関わりを受け、自信をもって気持ちを伝える事ができるようになった	A	A		
		【体を動かそう】体・態度 体を動かして遊ぶことを喜び、何事も前向きに挑戦しようとする	年長児の姿を見て鉄棒や雲梯、縄跳びなどに何度も挑戦する姿が年中・少児にも見られるようになった。保育者はこどもの「見てて」と挑戦しようとする姿に寄り添ったり、一緒に遊ぶ中で、できるようになった喜びに共感したりした	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	幼児期に育てたい10の姿を踏まえ、年齢や特性による発達の違いを理解し、一人一人に合わせた援助がされている	10の姿を意識した計画と教育を実践した。特に年長組は一年を通して就学に向けて10の姿と照らし合わせながら、保護者に伝える工夫もできた。個別に合わせた援助については、一人一人に合わせた対応や声掛けをどの職員も心掛けた	A	A	・ 毎朝職員が「体調どうですか？」と声掛けしてくれるので、ハツとなる事が多い。こどもの体調把握の促しが有難いと思っている	10の姿については、経験のある職員を中心に若手職員がきちんと理解して教育保育に取り組めるように、引き続き職員間で意識を深められるようにしていきたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭との連携を図りながら、1号児、2号児各々の生活の時間帯の違いに配慮した流れが園生活の中で作られている	学年に応じた生活の流れの中で活動内容や休み明けのこどもの体調など考慮した。特に2号児の午睡については1学期は年少組は早めに入眠したり、3学期は年長組は緩やかに午睡をなくしていったりする等無理なく活動に参加できるようにした	A	A	・ 防災と支援については、100%この対策で間違いない、という事はないのではないかと、月に1回、きちんと避難訓練が通年で行われているのでよいと思う	保育室内にもこどもが気持ちを落ち着けるようなスペースを作る等の工夫をした事で、気持ちを切り替えて活動に参加できる姿が見られた。今行っている工夫の他にも考えられる事を実施していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	こどもの思いを捉え、こども自らが考えたり工夫したり試行錯誤したりできるように環境が作られている	素材の量、数、出合わせ方を考えた環境設定により遊びが広がった。運動会や表現遊びの会などの大きな行事の時には、主体的に活動を楽しみ、こども達が自分で(保護者も巻き込みながら)遊びに必要な物を集めるなどの姿も見られた	A	A	・ 評価方法について、AよりのBと評価したいところもあり、評価に悩む。AとBの境の判断が難しい	今年度と同様にこどもが自分で考えて工夫したり試行錯誤して遊ぶことができるように、一緒に遊びに必要な物を揃えたり、環境設定を整えたりしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な状況を想定した避難訓練が計画に沿って実施されている。又ヒヤリハットの事例検討や安全チェックリストの実施が定期的に行われている	減災教育の研修を職員が受け、避難姿勢を見直す等し、年間を通して様々な状況を想定した訓練を実施した。危険箇所やヒヤリハットの共有も十分に行えたが、南海トラフを想定した訓練については来年度以降更に熟考していく必要がある	B	A	・ 組織運営や研修などは評価委員の立場からは見えにくい部分ではある。よくやってくれていると思うが、こども園の自己評価がBなので、Aでも良い気がするがBとする	南海トラフを想定した訓練や水害を想定した訓練等も来年度の避難訓練計画に取り入れ、実施をしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	体を動かす遊びや食育活動を通して、自分の体に関心を持ち、健康に過ごす習慣が身に付くような取り組みがされている	高松こども園の栄養士に來園依頼をし、食育活動を実施したり、絵や実物を用いてこども達の理解につながるよう食育の会を実施した。畑の野菜の栽培についてはもう少し、野菜の生長に興味関心をもてるような関わりができれば良かった	B	B		野菜の生長に興味を持てるよう、畑他にプランター等を生活や遊びの動線考えた場所に設置し、水やり当番等の栽培活動を日常的に行えるようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援者担当会議を通して、一人一人の姿に応じた支援方法が職員間で共有され、同じ関わりが持てるようになっていく	支援者担当会議を通し、要支援児の様子や支援方法を担任間で共有し連携する事ができたが、他の職員への伝達が不十分だったため、全職員での共有という点において課題が残った。会議の報告を徹底していきたい	B	B	・ 行事時のドキュメンテーションの作りこみがいつでも感じている。保護者だけでなく祖父母も見ることがあるので、満足している	職員会議で支援担当者会議の内容を共有するなどして、支援が必要な子も含め、こどもの姿をクラス担任だけでなく、園全体で共有できるようにしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の分掌に責任感を持ち、計画に沿って行事の企画がされている。分掌任せになることなく全職員の協力体制の下、実施されている	分掌担当が中心となり、早めに企画を立て計画的に行事を行う事が出来た。自分の分掌以外についても、積極的に協力し一人に負担が行きすぎないように互いに声を掛け合えると、尚良かった。	B	B	・ ICTの導入により、こども園でこども達がICTに触れる事について、家庭ではいついという事が多いので、調べものも図鑑と併用したり、どちらのツールを使うか保育者が選択しながらと入り入れるなど、ICTに頼り過ぎない教育保育をお願いしたいと思っている	企画を立てる段階で、職員同士で声を掛け合い、進捗状況を共有し、協力体制が取れるようにしていく。また、反省を出し合い次の計画につなげていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマの「好きを極めるための保育者の援助」に基づいた環境構成や援助が探られ、園の教育保育についての語り合いと学び合いがされている	互いの中で研修テーマに迫る話し合いを通して、保育の質の向上へとつながる部分もあったが、月の計画や反省は報告だけになってしまい、学び合いが不十分だった	B	B		公開保育、月案共に全員が発言できる機会を作り互いの保育案や活動内容について語り合えるようにしていく。また会議に直接参加できない職員とも語り合う機会を設けていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	こどもと振り返りをし、明日も遊びの続きを継続できるような声掛けや素材の出合わせ方を考え提供がされている	カレンダーや遊びの様子を撮影した動画など視覚的な情報も取り入れ、こども達自身が「やりたい」という気持ちを持ち、続きを楽しみにする姿も今後という思いにつながる振り返りをした。ICTを今後更に取り入れていきたい	B	B	・ こども園側の評価にならってB評価としたが、伸びしろに期待をこめてBとした	「やってみよう」というこどもの気持ちを引き出す為、これまで通り図鑑なども活用しながら、頼り過ぎないようにしてICTも上手に活用していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ドキュメンテーション等の写真の掲示やコドモンを使ってのお便り配信でこどもの姿や園の教育保育についてわかりやすい形で配信されている	コドモンで日々の遊びの様子や月の教育保育目標についても配信してきた。また、表現遊びの会など大きな行事の時には保護者だけでなく祖父母の方にも伝えるようドキュメンテーションを掲示しアンケート等で満足度が高いことが分かった	A	A		ICTを活用した配信をすると共に行事によってドキュメンテーションも引き続き取り入れ、保護者に伝わりやすい方法をその都度考えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や小学校との交流、公開保育の中で、自園の取り組みについて発信され、学校評議員の場などで情報交換や幼小の連携が図られている	連携園むすびとの職員交流や大谷小との交流(読み聞かせ・職員交流会・公開授業・公開保育)など前年度に比べ回数が増えた事で、一歩踏み込んだこどもの姿の情報共有ができた。取り組みは来年度も継続していきたい	A	A		昨年度に比べ、今年度新たに取り入れた事業に関しては継続して来年度以降も実施できるよう年間計画に盛り込んでいくようにする
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の園として親しまれるよう、おしゃべりサロンの実施、地域行事の積極的な参加、散歩などを通して様々な人と関わる機会が作られている	勤労感謝訪問で地域に出かけ、新たな関わりに繋がった案件があった。敬老会参加やサンタ役を地域の方に依頼する等色々な人との関わりを持つことができたが、散歩についてはもう少し計画的にかけられると良かった	A	A		自然物と触れ合う経験の他にも、こども達が園外に出かけ、色々なヒト、モノ、コトと触れる機会を計画的に作っていく。